

各位

株式会社トランスジェニック

第 26 期定時株主総会の質疑応答の要旨について

2024 年 6 月 20 日(木)、第 26 期定時株主総会を開催し、3 名の株主様から 7 件のご質問を頂き、代表取締役社長 福永が回答致しましたので、その要旨をお知らせいたします。

記

(質問要旨) 売上高は伸び、成長途上の先行赤字の創薬支援事業を抱えながらも黒字決算を維持しているものの、株価が異常に低い。会社の特徴・強みが良く見出されていないことが原因だと考えるが、どのようにお考えかお聞かせください。

(回答要旨) ご意見のとおりです。我々は遺伝子改変技術を武器に 2002 年に当時の東証マザーズに上場した産学官ベンチャーです。もともとかなり強気の先行投資型の自社開発型事業モデルであったために上場後 5~6 年で実質的には経営危機的状況に陥りました。そこで、一番の強みの遺伝子改変技術を用いた受託事業を強化するとともに、遺伝子改変マウスを用いた非臨床試験を営む事業体である株式会社新薬リサーチセンター（以下、新薬リサーチセンター）や株式会社安評センター（以下、安評センター）をグループに取り入れました。しかしながら、創薬支援事業自体、事業拡大において、設備拡張や人員補強の先行投資負担が発生し、損益構造は不安定になるので、グループの経営基盤の安定性を確保するために、事業承継型の投資・コンサルティング事業を開始いたしました。今年の決算は、その成果が反映された結果となり、創薬支援事業の赤字を投資・コンサルティング事業がカバーし、グループ全体で黒字を確保しました。

株価の低迷は、創薬支援事業が非常にわかりにくい構造にあることが原因だと考えています。当社は、強みである遺伝子改変技術を起点として下流の事業領域がありますが、売上は普遍的なサービスの割合が高く、「中規模、凡庸な CRO を目指しているのではないか」と思われているようです。

非臨床試験事業業界の圧倒的 No. 1 は鹿児島にある東証プライムに上場している新日本科学社、続いて未上場のボゾリサーチセンター社、メディフォード社、次に新薬リサーチセンターおよび安評センターが合併する新会社と続きます。我々は、上位 3 社と同じ事業モデルで競争するつもりはありません。新日本科学社とは事業規模で 10 倍、ボゾリサーチセンター社、メディフォード社とは 2~3 倍の開きがあり、同じ事業モデルで競争して生き残ったと

しても、価格競争等で疲弊して収益性が低い会社になります。株価が低迷する理由は、株式市場が、当社を厳しい競争を行う収益性が低い会社に向けて進んでいるものと誤解しているところがあるからだと思います。我々は、他社と競争する必要がない、売上の内容が異なる遺伝子改変技術を生かした特殊な安全性試験、薬効薬理試験サービスで売上を伸ばし、事業拡大を進めていきたいと考えています。

(質問要旨) 10/1 にグループ会社 2 社 (新薬リサーチセンターと安評センター) を経営統合し、社名をトランスジェニックとする意図と、この会社の強みについてお聞かせください。

(回答要旨) トランスジェニックの社名そのものが「遺伝子改変」という意味ですが、まさに統合する 2 社の事業領域でもあるため、「今の事業領域に満足せず、環境変化に適合できるように革新して進んでほしい」という意図があります。安評センターの売上は 6 年前に譲り受けた時は約 6 億円だったが、去年は 15 億円弱と約 2 倍以上となりました。売上高の 5 割弱を占める約 7 億円が遺伝子改変技術関連ですが、そのうちの 4~5 億円が、安評センターが独占している遺伝子改変マウスを用いた遺伝毒性試験の受託売上です。試験サービスの競合や価格競争がないため、遺伝毒性試験の受託は 5 年間で 4 倍以上増えています。現在、肝臓ヒト化マウスやトランスジェニックゼブラフィッシュを用いた試験構築に着手していますが、他社が参入できない試験サービスを軸にしていきたいと考えています。この売上を伸ばすことにより、当社が独占する遺伝子改変試験サービスが売上の相当部分を占めるようにしていきたいと考えています。今後、遺伝子改変マウスや肝臓ヒト化マウス等の特殊な遺伝子改変生物を用いた試験が、どのような売上割合になるか、アピールすることが株価の回復につながると考えています。

(質問要旨) 株価が低い要因は、IR が出ても簡単に空売りされているからだ。空売りを回避するために 5 株または 10 株を 1 株に併合してほしいが、お考えをお聞かせください。

(回答要旨) 空売りが株価低迷の要因となっている点は、ご指摘の通りです。信託銀行その他専門機関と相談の上検討いたします。

(質問要旨) 株主総会の質疑応答もビデオ撮影を配信してほしい。株主総会に出席しない株主は、「株主がどういう質問し、会社がどのように回答するか」を知りたいので検討していただきたい。

(回答要旨) 現状でも質疑応答の内容は要旨として書面で公表していますが、質疑応答の部分の動画配信については今後検討いたします。

(質問要旨) 東京証券取引所が要望している「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」の開示予定を知りたい。

- (回答要旨) プライム市場およびスタンダード市場の上場会社が対象のため、グロース市場の当社は開示しておりません。当然、資本コストや株価を意識した経営をしなければいけないことは承知しています。
- (質問要旨) (招集通知 6 ページ記載) 支払い解決金について説明していただきたい。
- (回答要旨) 創薬支援事業、投資・コンサルティング事業 (それぞれ 1 件) の取引における解決金として計上しています。
- (質問要旨) (招集通知 6 ページ記載) 株式会社 TGM における大型受注案件の内容・金額を教えてください。
- (回答要旨) 株式会社 TGM はガラス設置に必要な消耗品販売や、AGC 社やセントラル硝子社の大手ガラスメーカーの工場ラインで使用する特殊な機械を輸入販売および設置に強みを持つ専門商社ですが、昨年数億円規模の大型機械を設置しました。売上全体の 130 億円の中の数億円ですが、大型機械の設置だったため利益が上がり、決算にインパクトを与えました。

以上